

# JA全厚連情報



厚生連病院事務部長セミナーを開催

## 目 次

- 年頭所感  
全国厚生農業協同組合連合会 代表理事会長 長谷川 浩敏 1
- 地域医療や地域医療構想、広報戦略をテーマに研修  
厚生連病院事務部長セミナーを開催 3
- 組織を動かす仕組み・良好な職場環境の構築について研修  
厚生連経営管理職層育成研修会（経営理論編）をWEB開催 6
- JA全厚連 第11次3カ年計画及び令和7年度事業計画等について協議  
事業企画委員会（実務者PT・医師PT）を開催 7
- JA全厚連 第11次3カ年計画及び令和7年度事業計画のポイント等について協議  
厚生連部課長会議を開催 11
- 設備投資意思決定の応用演習等について研修  
厚生連経営管理職層育成研修会（応用編第2クール）をWEB開催 12

### ・通信員だより

- ニセコ羊蹄広域 倶知安厚生病院改築整備工事落成式並びに祝賀会  
（ニセコ羊蹄広域 倶知安厚生病院） 13
- 「第95回市民公開講座」を開催しました！（秋田厚生医療センター） 14
- 今こそ災害医療を考えよう「第63回農村における健康を考える集い」（JA秋田厚生連） 15
- 第22回日本医療マネジメント学会茨城県支部学術集会を開催（水戸協同病院） 17
- 令和6年度 栄養科職員研修会を開催（JA長野厚生連） 18
- 看護教材の寄贈式（浜松厚生看護専門学校） 19
- 看護師特定行為研修開講式（JA三重厚生連） 20
- 西日本地区健康管理専門厚生連運営研究会の開催（JA熊本厚生連） 22



©よい食プロジェクト

全国厚生農業協同組合連合会  
〒100-6827 東京都千代田区大手町 1-3-1 JAビル  
TEL(03)3212-8000 FAX(03)3212-8008  
E-Mail: jigyounei@ja-zenkouren.or.jp  
(事業運営支援グループ)  
<https://www.ja-zenkouren.or.jp>  
編集責任者 歸山 好尚



JA厚生連



年頭所感  
2025

# 年頭所感



全国厚生農業協同組合連合会

代表理事会長 長谷川 浩敏

令和7年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

日頃よりJA厚生事業にご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

農業情勢では、昨年5月に「農政の憲法」である「食料・農業・農村基本法」の改正案が成立しました。食料安全保障の確保が法律の目的に加えられ、適正な価格形成の実現につながる記載がなされるなど、わが国の農業は歴史的な転換点を迎えました。

医療情勢でも、医療・介護・障害福祉の報酬トリプル改定が実施され、医療提供体制の大きな転換点となりました。この改定では、高齢者に視点を置いた地域包括ケアシステムの更なる推進や、医療機能の分化・連携の強化が図られました。特に、在宅医療の充実や介護サービスとの連携強化、リハビリテーションの質の向上などが重点的に評価される結果となりました。また、障害福祉サービスにおいては、地域生活支援の拡充や就労支援の強化が図られ、より包括的な支援体制の構築が進められました。

一方で、昨年は物価高騰が続き、医療機関にも大きな影響を及ぼしています。エネルギーコストや医療材料費、建築費等の上昇により、多くの医療機関が経営面で厳しい状況に直面しています。特に、診療報酬が公定価格であるため、コスト増加分を価格に転嫁できず経営を圧迫する要因となっており、地域医療の持続に関する懸念が高まっています。

本年においては、団塊の世代の多くが75歳以上となる年となり、国の地域医療構想の実現に向けた重要な年となります。厚生労働省は、さらに2040年を見据えた医療・介護提供体制の構築を目指しており、地域包括ケアシステムの深化や医療機能の分化・連携のさらなる推進が求められています。

また、医師の働き方改革が本格的に始動し、医療現場では労働時間管理の厳格化や勤務環境の改善が急務となっています。同時に、医療DXの加速により、電子カルテの標

準化や全国医療情報プラットフォームの構築など、効率的で質の高い医療サービスの実現に向けた取組が進められています。

医療機関における人材確保と経営の安定化は、依然として医療界全体の重要な課題となっています。特に深刻なのは、地域間での医師の偏在問題です。

都市部では医師数が比較的充足している一方で、地方や過疎地域では深刻な医師不足に直面しています。この偏在は、単に医師の絶対数不足だけでなく、地域間での不均衡な分布が原因となっています。その結果、地方では必要な医療サービスを受けられない住民が増加し、地域医療の質の低下につながっています。

このような変革の時代において、JA厚生連は地域に根ざした医療・介護サービスの提供者として、より一層の役割を果たしていく必要があります。地域住民が安心して保健・医療・高齢者福祉サービスを受けられ、健康に暮らすことができるよう、JA厚生連役員一丸となって取り組んでまいります。

本年も、皆様方から、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



## 地域医療や地域医療構想、広報戦略をテーマに研修 厚生連病院事務部長セミナーを開催

本会は11月25日及び26日に、厚生連病院事務部長セミナーを東京ガーデンパレスで開催し、20 厚生連から94名が参加した。

本セミナーは、病院経営全般にかかる情報の取得、厚生連病院事務部長間の連携の促進を図ることを目的に開催しており、今年度は、地域医療構想や広報戦略、多職種連携、エンゲージメントをテーマに、11月25日、26日の2日間で開催した。

1日目は、「地域包括ケアにおいて厚生連病院に求められる役割 事務部長に求められること」について、あがの市民病院 院長 藤森 勝也氏が講演を行った。

講演の中では、事務部長が取り組むべき課題や行事への積極的な参加について、実際にあがの市民病院で行っている内容を踏まえながら説明いただいた。

参加者からは、「経営改善の状況とそれに伴う事務部長の役割が理解出来ました」、「院長の立場から事務長に求めることが分かりやすく理解できた」等の感想が寄せられた。



藤森氏講演のようす

その後、「山梨県厚生連の取り組み～戦略的広報の重要性～」と題して、JA山梨厚生連 経営戦略部 広報企画課長 志村 直樹氏が講演を行った。

講演の中で志村氏は、「以前は業務として行ったことを発信していたが、今は広報するために企画立案している。事業の枠を超えて行い、最終的に利用者の増加につなげていくのが広報企画」と述べた。

参加者からは、「広報の重要性は認識しているが、ノウハウがなく進まない状況です。良いヒントになりました」、「地域にとって変わらない存在であるために変わり続ける行動にとっても共感した」等の感想が寄せられた。



志村氏講演のようす

1日目の最後は、松本 晴樹氏（厚生労働省 医政局 地域医療計画課 医療安全推進・医務指導室 室長）及び鳥澤 富之氏（新潟県 福祉保健部 医師・看護職員確保

対策課 主任)が「地域医療構想の展望(新潟での経験も踏まえて)」について講演を行った。

講演では、新潟県における医師確保の取り組みや、国が行っている新たな地域医療構想に関しての方向性等について説明いただいた。

参加者からは、「地域医療構想の議論の動向について最近情報はあまり無かったので有益でした」、「今後進むであろう、集約化に飲み込まれないような病院の方向性を早期に見定める必要性を更に強く感じました」等の感想が寄せられた。

2日目は、「公的医療機関としての厚生連病院の制約と課題」について、JA全厚連 参事 前田 俊範氏が講演を行った。

講演では、厚生連病院における農業協同組合法、法人税非課税措置要件等による規制について説明した。

参加者からは、「農協法を改めて確認できました」、「改めて全厚連の中央要請などの取り組みが時系列で紹介され重要な役割を担って頂いていることが確認できた」等の感想が寄せられた。

その後、「地域医療における多機関・多職種協働の課題と今後の展望—取り組み事例の検討より—」と題して、明治国際医療大学大学院教授 桂 敏樹氏(大学院保健医療学研究科 研究科長)が講演を行った。

講演の中では、多職種協働や多機関連携は地域や住民の皆様のために地域住民と一緒にすることも必要である。地域の住民を巻き込んで様々な機関や多職種が連携協働していただきたいと説明した。

参加者からは、「新病院になり、地域との関わりを再構築していくうえで参考になりました」、「多職種協働を学術的視点で学ぶことができ参考になった」等の感想が寄せられた。

2日目の最後は、齋藤 哲哉氏(社会福祉法人恩賜財団済生会支部 福井県済生会事務局長、福井県済生会病院 事務部長)が「エンゲージメントを高める組織風土」について講演を行った。



松本氏講演のようす



鳥澤氏講演のようす



桂氏講演のようす

講演で齋藤氏は、「先が読めない時代が変わってきているため、人財を資本とした経営をしていくべきである。そのベースは理念であり、理念に共感して自発的に貢献する意欲のある人、人財を育成することがエンゲージメントの高い組織につながっていく」と述べた。

参加者からは、「大変勉強になりました。自分の病院に活かせるように努めたい」、「パーパスやエンゲージメントが働きがいのある職場の構築については経営の安定に繋がることを学び大変参考になった」等の感想が寄せられた。



齋藤氏講演のようす

## 組織を動かす仕組み・良好な職場環境の構築 について研修

厚生連経営管理職層育成研修会（経営理論編）をWEB開催

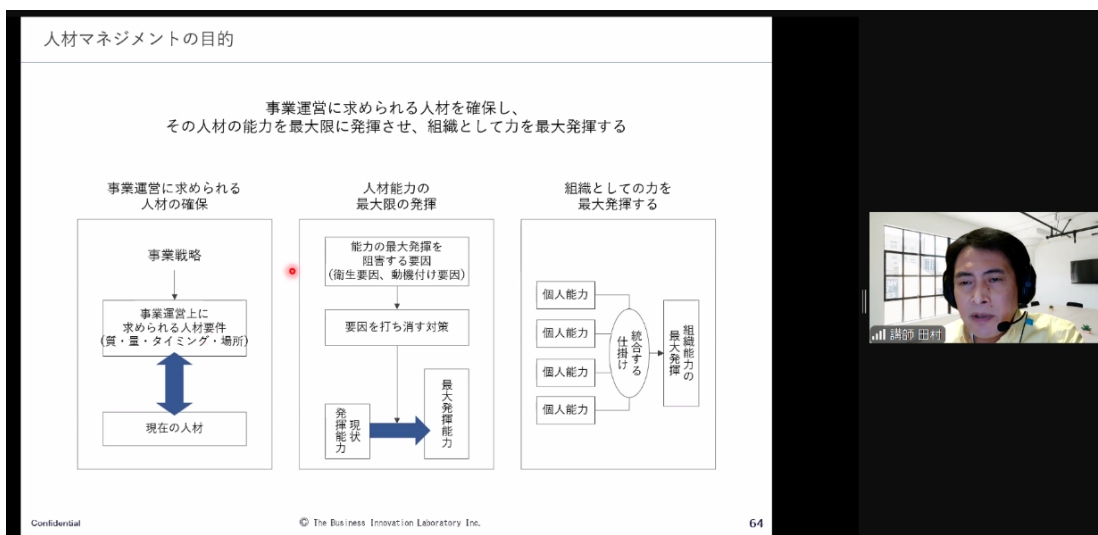
本会は11月26日、厚生連経営管理職層育成研修会（経営理論編）3日目をWEBで開催し、10厚生連から33名が参加した。

3日目は、組織を動かす仕組みとして、①組織体制づくりの視点、②組織づくりにおいて考慮すべきジレンマ、③組織づくりの基本原則、④組織設計の基本的知識、⑤組織生産性に影響を及ぼす因子について研修を行った。

また、良好な職場環境の構築として、①周囲のやる気の引き出し方、②心理的安全性なチームづくりについて研修を行った。特に心理的安全性な職場とは、誰もが責務を果たしながら、率直に、建設的な意見を交わしながら効率的な行動ができる職場環境であり、1. 素直に話すことが推奨されること、2. 各自やチーム内の考えが明晰になること、3. チーム内の意義ある対立が後押しされること、4. 失敗が緩和されること、5. イノベーションが促進されること、6. 目標を追求する上での障害が取り除かれること、7. 各自の責任感が向上することである、と述べられた。

その後、ワークシートの①簡易診断表、②自組織の変革課題にもとづき、グループに分かれてディスカッションを行った。

参加者からは「参加者からの個別の話しに、的確に回答いただき感謝します」、「管理職として必要な知識を取得できた」、「ほかの病院の方とのセッションは刺激になります」等の感想が寄せられた。



研修のようす



## JA全厚連 第11次3ヵ年計画及び 令和7年度事業計画等について協議

### 事業企画委員会（実務者PT・医師PT）を開催

11月28日及び12月13日に、大手町のJAビルにおいて、事業企画委員会（実務者PT・医師PT）を開催した。本会からは、第30回JA全国大会議案に盛り込まれることを踏まえ、「健康経営」に関し本会として、本年9月に「健康企業宣言」をホームページに掲載したことを紹介した。

実務者PTでは、①の施行規則第108条（損益計算書の区分）第9項への対応について、厚生連の財務諸表（損益計算書）の様式に関しては、農業協同組合法施行規則に規定されているが、他の医療機関の対応を踏まえた検討の必要性については、出席した委員から「補助金収益については、同様式に基づき特別利益として整理してきた経緯がある。特に、財務状況に関しては本業では赤字であることを説明してきているが、突然事業収益が増えたように見えてしまうと困るといのが正直なところ」等の発言があった。

また、②のJA全厚連 第11次3ヵ年計画及び令和7年度事業計画のポイントについて、出席した委員からは、「情勢を踏まえて、全厚連としてはこういうふうな活動に繋げるべきではないかという文章がなく、意見しづらい。2月に予定されている全厚連理事会までには、見解を加えて提示いただきたい」等の発言があった。

医師PTでは、①の施行規則第108条（損益計算書の区分）第9項への対応について、出席委員からは「コロナ補助金だけではなく、今後地域の医療をやるときに、公的な補助などが入ってくるので、堂々と受け取るためには、経常収支に入れることも検討が必要と考えられる」等の発言があった。

②のJA全厚連 第11次3ヵ年計画及び令和7年度事業計画については、「事業計画の制度に関する検討事項で、遊休資産の活用として賃貸の可能性に関しては理解できたが、遊休ではないもの、特に、付帯事業として実施しようとする不動産賃貸についても検討してもらおうとともに各厚生連にしっかり周知願いたい」等の発言があった。

③の厚生労働省が実施する個人防護具回転備蓄事業性能検査への協力について、「医療行政に対して、厚生連が積極的に取り組もうとすることについては協力していきたい」とする意見や「多額の費用は必要ないと思うが、厚生労働省として費用負担等もしてもらえないのか」等の発言があった。

## 事業企画委員会 医療事業部門 実務者 PT 次第

日時：令和 6 年 11 月 28 日(木)  
15 時から  
場所：J A 全厚連会議室

1. 開 会
2. あいさつ
3. 新委員の紹介（谷口委員）
4. 報告事項
  - （1）厚生連の令和 6 年度上半期経営収支状況について
  - （2）令和 6 年度補正予算要望について
  - （3）個人防護具回転備蓄事業性能検査への協力について
  - （4）令和 6 年度法人税非課税承認申請について
  - （5）第 30 回 J A 全国大会議案への対応について
5. 協議事項
  - （1）施行規則第 108 条（損益計算書の区分）第 9 項への対応について
  - （2）J A 全厚連 第 11 次 3 ヶ年計画及び令和 7 年度事業計画のポイントについて
  - （3）今後の健診への支援について
  - （4）その他
6. 閉 会

## 事業企画委員会 医療事業部門 医師 PT 次第

日時：令和6年12月13日(金)  
14時から

場所：J A全厚連会議室

### 1. 開 会

### 2. あいさつ

### 3. 報告事項

- (1) 厚生連の令和6年度上半期経営収支状況について
- (2) 令和6年度補正予算要望について
- (3) 個人防護具回転備蓄事業性能検査への協力について
- (4) 令和6年度法人税非課税承認申請について
- (5) 第30回J A全国大会議案への対応について

### 4. 協議事項

- (1) 施行規則第108条（損益計算書の区分）第9項への対応について
- (2) J A全厚連 第11次3ヵ年計画及び令和7年度事業計画について
- (3) その他

### 5. 閉 会

## 令和6年度事業企画委員会 名簿（実務者PT部門）

氏名	厚生連名	役職
小川 秀幸	北海道	代表理事専務
高久 忠	福島県	代表理事理事長
高木 茂	富山県	代表理事理事長
宇野 修二	愛知県	代表理事理事長
谷口 直樹	岐阜県	代表理事理事長
豊田 達之	広島県	代表理事理事長

## 令和6年度事業企画委員会 名簿（医師PT部門）

氏名	厚生連名	役職
小野地 章一	秋田県	代表理事理事長
高野 靖悟	神奈川県	代表理事理事長
洞 和彦	長野県	代表理事理事長
塚田 芳久	新潟県	代表理事理事長
田宮 隆	香川県	代表理事理事長

## 【参考】

## 令和6年度事業企画委員会 名簿（保健事業部門）

氏名	厚生連名	役職
飯沼 全司	山梨県	代表理事専務
上月 裕司	兵庫県	代表理事常務
三宅 隆	愛媛県	代表理事理事長
西野 良二	熊本県	代表理事常務



## JA全厚連 第11次3ヵ年計画及び 令和7年度事業計画のポイント等について協議 厚生連部課長会議を開催

本会は11月29日に、東京・大手町のJAビル4階「401会議室」において、厚生連部課長会議をWEB併催した。

会議では、(1)施行規則第108条(損益計算書の区分)第9項への対応(厚生連看護専門学校に係る修学支援新制度指定除外への対応)、(2)令和7年度税制改正要望、(3)JA全厚連 第11次3ヵ年計画及び令和7年度事業計画のポイント、(4)今後の健診への支援、(5)令和6年度補正予算要望、(6)巡回健診における医師の立会い、(7)第30回JA全国大会議案への対応(協会けんぽ及び農林健保との連携)、(8)厚生連の令和6年度上半期経営収支状況、(9)令和6年度法人税非課税承認申請、(10)令和7年度JA全厚連主要会議日程一等について協議・報告した。

(1)について、特別利益の区分の考え方について説明を行った。出席者からは、「財務諸表を変更するにあたって、かなりの労力とボリュームがいる。農協法の施行規則という中で財務諸表を作成していて、一つの会計として確立しているのだから、今更変えなくてもよいのではないかと思う」との意見が出された。

(3)では、令和7年度の事業計画のポイントについて本会より説明を行った。

(6)では、巡回健診において医師の立会いが必要な検査については、立会いを徹底するよう説明した。議題に関連し、「胸部CTと骨粗鬆症については、特に骨粗鬆症は短時間で済み線量も多くないことから、今後医師の立ち会いがなくてもできるような方向に持って行っていただきたい」との要望があった。

(7)に関連して、第30回JA全国大会において、「健康経営」等への取組みが決議に含まれたことを受け、本会は健康宣言を行ったことを報告した。

(9)について、法人税非課税措置要件の説明を行い、変更届等の報告漏れがないように厚生連へ求めた。

## 設備投資意思決定の応用演習等について研修

厚生連経営管理職層育成研修会（応用編第2クール）をWEB開催

本会は12月12日、13日の両日、厚生連経営管理職層育成研修会（応用編第2クール）をWEBで開催し、11厚生連から31名が参加した。

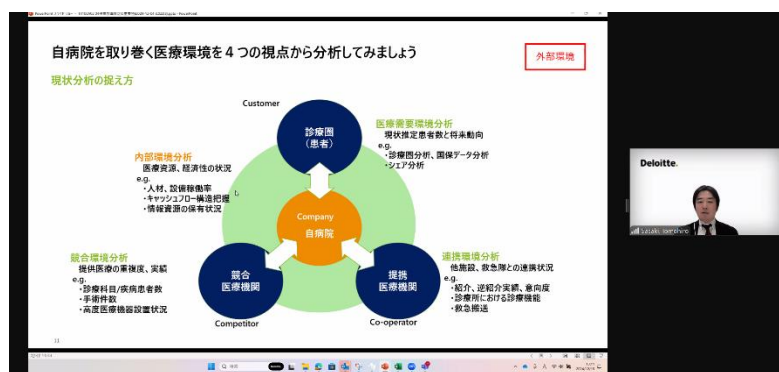
本研修会は、研修会参加者が将来において、病院・施設の運営及び管理を担う能力をそなえるため、経営管理に必要な財務知識の習得とマネジメント能力の向上を図るとともに、研修参加者相互の情報交換・ネットワーク作りを目的として、平成23年度より開催している。

研修会は、講義・演習・グループディスカッションで構成しており、第2クールでは、①財務会計と管理会計の違い、②設備投資意思決定の応用演習、③事業計画策定の重要性、④原価計算の応用演習について研修を行った。

初日の講師は、有限責任監査法人トーマツPSHC東日本シニアスタッフの長谷川氏と同・シニアスタッフの木村氏が担当した。研修の内容については、財務会計と管理会計の違いを中心に、2種類の会計の違いと活用方法を学んだ。その後、設備投資意思決定の応用で習得したい3つのポイント（①なぜ必要か、②代表的な手法、③設例を通じて設備投資意思決定の代表的な手法の利用方法と判断のポイントを理解する）について研修後、ディスカッションを行った。

2日目の講師は、有限責任監査法人トーマツPSHC東日本マネジャーの佐々木氏とデロイトトーマツリスクアドバイザー合同会社マネジャーの赤宗氏が担当した。研修の内容については、事業計画策定の重要性について受講した後、グループに分かれて原価計算の応用演習についてディスカッションを行った。

参加者からは、「他の厚生連の方と意見交換しながら、勉強することができてよかった」「原価計算については、作成方法よりも実際の経営でどのような改善効果があったのか、作成していくうえで発生した問題など実例を知りたかった。」等の感想が寄せられた。



研修のようす

口通信員だより

## ニセコ羊蹄広域 倶知安厚生病院 改築整備工事落成式並びに祝賀会

(JA北海道厚生連・ニセコ羊蹄広域 倶知安厚生病院)

11月29日午後5時00分より「倶知安町ホテル第一会館」において、行政、JA関係者、工事関係者など約90名が出席する中、ニセコ羊蹄広域倶知安厚生病院改築整備工事の落成式並びに祝賀会が開催されました。

今回の改築整備を機に『ニセコ羊蹄広域』を冠に名称も改め、地域住民だけではなく、倶知安町を始めとする、ニセコ羊蹄地域を訪れる皆様からも選ばれる病院を目指す思いを込めています。

救急医療や小児・周産期医療、精神医療をはじめとする不採算医療に加え、外国人に対する医療や訪問診療など、地域特有の課題にも継続して取り組むことが地域には必要であるとの結論に至り、地元自治体のご理解と全面的なご支援を受け、この改築整備工事を進めることができました。

落成式及び祝賀会はこの改築整備に至るまでのさまざまなエピソードや、多くの方々の思いが詰まったスピーチいただき、大変心温まる雰囲気の中、終始賑やかに落成を祝う集いとなりました。

今後も、地域の皆様に愛される病院、そして広大な後志地域を訪れる方にとっても、なくてはならない病院として邁進してまいります。



祝賀会の様子

(田宮真由美通信員)

## 「第95回市民公開講座」を開催しました！

(JA秋田厚生連・秋田厚生医療センター)

10月19日、秋田市のさきがけホールにおいて、秋田厚生医療センター柴田聡病院長が日本消化器病学会東北支部の世話人となって、「第95回市民公開講座」を開催しました。

今回は、「健康長生きのためにお腹のコト学びましょう！」をテーマに、当院の医師4名が、多くの患者さんが悩む大腸、治療が困難な膵臓、そして新しい治療法が登場している肝臓について講演しました。

初めに、笹原萌臨床研修医が「お腹の急病」について講演し、続いて、消化器内科小林芳夫診療科長が「大腸」について、また、消化器内科津田栄彦診療部長が「膵臓」について、最後に、星野孝男副院長が「肝臓」について講演するなど、それぞれの専門分野ごとに病気にならないための予防や治療についてわかりやすく解説しました。参加された方々は、いつまでも元気に過ごすための知識を得ようと真剣な表情で聞いていました。

講演終了後、地域の皆さんの悩みや質問に答える時間を設け、「脂肪肝と言われたが日常生活でどんな事に気を付けたらよいか」「コレステロールの薬を服用しているが、少量のお酒でも休肝日は必要か」など普段の食生活や生活習慣等に関する具体的な質問が寄せられました。この講座が、参加いただいた皆様はもとより、ご家族や周囲の方々の検診や適切な受診のきっかけとなることを願っております。

当院では、正しく病気を理解し、予防や早期発見、早期治療の意識を高めていただくため、今後も地域住民の皆様を対象にこうした公開講座を定期的で開催していく予定としております。ぜひお住いの近くで開催された際には、気軽に足を運んでいただきたいと思います。



研修会の様子

(淡路明美通信員)



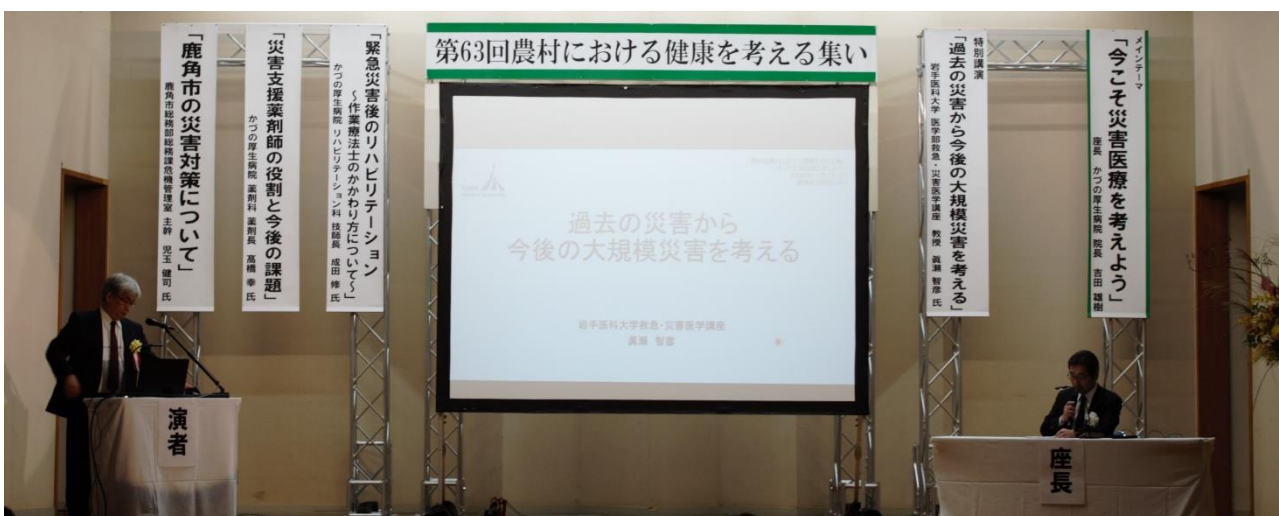
## 今こそ災害医療を考えよう 「第63回農村における健康を考える集い」

(JA秋田厚生連)

11月3日、鹿角市の「鹿角市交流センター」において「第63回農村における健康を考える集い」を開催し、約120名の皆様に来場いただき、盛会裡に終えることができました。

この集いは、秋田県種苗交換会行事の一環として昭和35年から開催しており、今年、かづの厚生病院（吉田雄樹病院長）が担当病院となり、「今こそ災害医療を考えよう」をテーマに実施しました。近年、豪雨や台風、地震などによる大規模災害が頻繁に発生しており、秋田県内においても線状降水帯の発生に伴う被害が相次ぎ、医療機関自体が被災する事象もあったことから、「災害医療」について4名の方々にご講演いただきました。

第一部の特別講演では、岩手医科大学医学部救急・災害医学講座の眞瀬智彦教授をお迎えし、「過去の災害から今後の大規模災害を考える」と題してご講演いただきました。阪神淡路大震災や東日本大震災、津波等、過去の災害から学んだ教訓から、今後のネットワーク体制や医療活動に係る体制の整備の大切さを分かりやすくご説明いただき、医療関係者や地域住民の方々が熱心に聴講していました。



「第63回農村における健康を考える集い」開催の様子

第二部では、かづの厚生病院の2名の専門医及び鹿角市職員から『災害時における取組み』について講演していただきました。リハビリテーション科成田修技師長は「緊

急災害後のリハビリテーション～作業療法士のかかわり方について～」、続いて薬剤科高橋幸薬剤長が「災害支援薬剤師の役割と今後の課題」をテーマに、災害医療の具体的な取組みについて講演しました。また、鹿角市総務部総務課危機管理室児玉健司主幹からは鹿角市の災害対策について、過去の災害事例を交え、普段からの災害に備えた防災訓練の大切さや、具体的な行動を決めておくことの重要性を教えていただきました。

ご参加いただいた皆様に心より感謝を申し上げます。次回は湯沢市での開催を予定しておりますので、今後もよろしく願いいたします。

(淡路明美通信員)

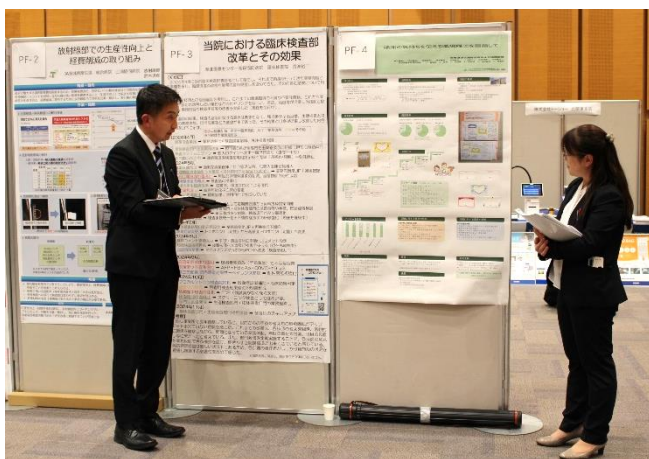
## 第22回日本医療マネジメント学会 茨城県支部学術集会を開催

(JA茨城県厚生連・水戸協同病院)

11月30日、水戸協同病院主催による第22回医療マネジメント学会茨城県地方学術集会が、つくば市の国際会議場(エポカルつくば)にて開催されました。今回は「変容し続ける医療現場をマネジメントし、明るく楽しい職場を創り出す」をテーマに、県内各地から参加した多くの医療従事者から、良好な職場環境づくりに関する様々な取り組みが発表されました。医療現場におけるマネジメントやZ世代とのコミュニケーションに関する特別講演なども盛り込まれ、これからの職場づくりにとても参考になる内容でした。

開催のあいさつにおいて、学会長の秋月浩光 水戸協同病院院長は、「ITによって職場環境が大きな変貌を遂げている。また、仕事に対する姿勢、価値観なども世代によって大幅に違う。しかし、『組織は人なり』である。今回、人と人とのつながりの大切さを改めて考え直す機会になってもらえれば幸いである」と話しました。

学会には328人が集まり、参加者は各ブースでの発表を熱心に聴講し大盛会となりました。



ポスター発表の様子



開会の挨拶をする秋月学会長

(先崎理恵通信員)

## 令和6年度 栄養科職員研修会を開催

(JA長野厚生連)

JA長野厚生連は11月19日、令和6年度の栄養科職員研修会をオンラインで開催しました。今年度で19回目を迎えるこの研修会は、栄養科職員のスキルアップおよび情報交換と情報共有を目的に、年1回開催しています。当日は、県内当会事業所の栄養科職員約50人が参加しました。当番事業所の北信総合病院栄養科の宮本亮子科長を中心に、企画・検討を行い、今年度は各事業所からの事例発表と外部講師による講演を行いました。

今年度は「患者給食の質の維持向上のために取り組んでいること」をテーマに、各事業所から事例発表を行いました。人員不足でも継続していきたい献立や取り組み、クリスマスやひな祭りに出されるイベント食の紹介やアンケート結果、調理技術の継承や若手調理師の育成など各事業所で取り組まれている事例など情報交換を行い共有しました。

また、講演では株式会社ミールケアの専務取締役で管理栄養士の田子美津子氏を講師に迎え「人と人をつなぐ持続可能な給食サービス」をテーマに講演をいただきました。今般の給食事情や抱える課題、病院給食にもとめられるものなど、会社での事例を交えながら話をされ、各事業所からは熱心に聴講されている姿が見られました。

参加者からは「各事業所での取り組みが大変参考になった」との感想が多く聞かれたほか「どのように給食管理、運営をしているか学ぶ機会になった」「各事業所が取り組んでいる事例が多種多様で、当事業所でも早急に対応したい事例があり参考になった」などの意見もあり、有意義な研修会となりました。



研修会の様子

(山岸愛通信員)



## 看護教材の寄贈式

(JA静岡厚生連・浜松厚生看護専門学校)

JA静岡厚生連浜松厚生看護専門学校はJA共済連より看護教材 136点を寄贈いただき、10月22日寄贈式を執り行いました。

これはJA共済連の「JA共済 地域・農業活性化積立金」を活用した、地域と農業の活性化の取り組みとして、地域住民の健康管理と地域医療を支える看護師育成への支援のため寄贈いただいたものです。

JA共済連静岡県本部の鈴木政成会長は「更なる医療・看護の発展、そして良質な医療と温かい看護の実践に取り組んでほしい」と挨拶し、JA静岡厚生連の荒田庄治理事長は謝辞を述べ感謝状を贈呈しました。浜松厚生看護専門学校の藤田美保子校長は「応援してくださる皆様の期待に応えられる学校を目指します。」と感謝を伝えました。



寄贈式の様子

(望月俊宏通信員)

## 看護師特定行為研修開講式

(JA三重厚生連)

JA三重厚生連は、11月5日に三重県医療保健部長を来賓にお迎えし、看護師特定行為研修開講式を開催しました。

1年ほど前から本会が特定行為研修の指定研修機関となるべく準備を進めてきましたが、令和6年9月に厚生労働省より、県内3施設目となる指定研修機関の指定を受けることができました。通常、病院として指定を受けることが多く、JA三重厚生連という医療団体が指定を受けることは全国的にも珍しい事例です。本会が指定研修機関となることで、本部が受講生の受講進捗管理などの事務処理を行い、松阪中央総合病院および鈴鹿中央総合病院を中心に医師や特定行為研修を修了した看護師と連携し、特定行為研修を行う仕組みを構築していきます。特定行為研修の指定研修機関となることで、特定行為研修修了看護師を複数配置し、チーム医療の推進、医師の業務負担軽減、質の高い医療と看護を提供できる環境を構築することに繋がります。いずれは、厚生連のすべての病院が実習を行う施設にしていければと考えています。

新貝春紀代表理事理事長は挨拶のなかで、「受講生の皆さんが、1年間を通じて特定行為研修を無事修了することを願っております。また、三重県全体の特定行為研修修了看護師の養成に微力ながら寄与してまいります。」と述べました。

また、来賓の松浦県医療保健部長から、「県としても特定行為研修修了者を増やす目標を立てており、厚生連が指定研修機関となった意義は大きい。」と祝辞を頂きました。



受講生による決意表明

初年度の受講生は3名で、受講生を代表し三重北医療センター菰野厚生病院 看護師 森 沙織さんは、「研修を修了した後は、医療の現場で、問題解決に向けて多職種と効果的に協働できるように努力いたします。私達第1期生は、厚生連に貢献できる特定行為看護師になるよう努力いたします。」と決意を表明しました。

令和6年度は、呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連、栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連、栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連、動脈血液ガス分析関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連の5区分10行為の特定行為研修を開講します。これらの行為は、特に急性期医療の現場で必要とされる行為で、特定行為研修を修了した看護師の活躍が期待されることです。



開講式の様子

（井澤智子通信員）



## 西日本地区健康管理専門厚生連運営研究会の開催

(JA熊本厚生連)

JA熊本厚生連は、12月5日に「令和6年度西日本地区健康管理専門厚生連運営研究会」を開催し、全国厚生連をはじめ、西日本地区の健康管理専門厚生連6県から17名が参加した。

同研究会では、はじめに全国厚生連三根部長より、厚生連の現状や中央情勢について報告があった。その後、研究会では受診者拡大への取り組みや業務効率化の対策など4つの議題について協議を行った。また、情報提供として各県の様々な取り組みや全国健康保険協会の取り組みについて活発な意見交換を行い非常に有意義な研究会であった。



(上)主催者挨拶をする同連の西野良二常務 (下)参加者で記念撮影

(多久弘高通信員)